



上越市立稲田小学校

稲田小だより

令和6年度 No. 7

令和6年11月

◎学習発表会

校長 遠藤 和英

先月の学習発表会には、たくさんの保護者の皆様からおいでいただき、ありがとうございました。稲田小の大きな行事であるスポーツフェスティバルと学習発表会では、目的が違います。前者が競技の中で自分の全力を出し切るよさを体験することを目的としているのに対して、学習発表会は、友達と一つの音楽や発表を創り出す中で、みんなと協力して物事を完成させる素晴らしさを味わうことが目的です。今の子どもたちは自分の好きなことには集中して取り組むことができますが、友達がやっていることには無関心であり、ともに協力して何か一つのを創り上げるという経験が不足していると感じることがあります。集団での発表は、自分勝手ではできません。周りと合わせることが必要ですから、自分が好きでないことでもやらなければならない役割を担当することもあります。ときには自分を抑え、我慢して練習しなければならないこともあるでしょう。でも、そこを乗り越えて発表を完成させることができたとき、自分一人で何かを完成させたときとは違う、大きな感動を味わうことができます。まさに人と協力する喜びを感じることができる活動です。子どもたちには、この喜びは言葉で言うと『嬉しい』ということだけど、『ただの嬉しさではなく、人生の中でなかなか感じることはできない嬉しさなんだ』と伝えました。

子どもたちは、発表会を2回経験しました。1回目は本番の2日前。互いの学年の発表を見合う校内での発表です。体育館からいろいろな音が聞こえてきますから、何となくそれぞれの発表の様子は想像できるのですが、実際に多くの人の前で発表するのは初めてでした。子どもたちは緊張するのではないかと思いましたが、そうではありませんでした。もちろん緊張していた子どもも見られましたが、多くの子どもは自信にあふれていました。『一生懸命練習してきた私たちを見てください』という感じでした。また、見ている子どもたちの雰囲気も実によかったです。発表を見る真剣さを感じられ、発表に合わせて笑ったり、音楽に合わせて手拍子をしたり、発表が終わると自然に大きな拍手をするという温かな雰囲気でした。これは、『自分たちも頑張ってきたからきっと他の学年も同じはず・・・』という、相手を尊重する姿勢が表れたのではないかと思います。発表する子どもたちも、気持ちよく発表していました。この経験を経て、子どもたちはいよいよ本番の2回目を迎えたわけです。

当日、子どもたちは1回目の発表より若干緊張している様子は見られたものの、練習してきたことを自信をもって発表していました。皆様の目には、どのように映ったでしょうか。発表を終え、会場から教室へ向かう子どもたちからは、自信にあふれた顔、はにかむような笑顔が見られました。皆様の温かい拍手から、一杯の満足感を得たようです。また、後日の全校朝会で「学習発表会を見て褒めてもらった人？」と尋ねてみると、多くの子どもたちが嬉しそうに手を挙げていました。皆様に認めていただいた子どもたちは、きっと仲間と協力して一つのを創り上げる喜びを感じてくれたはずです。ありがとうございました。

最後になりますが、後日の保護者アンケートでも、参考になるご意見・ご感想をいただきました。今後の学習発表会等に生かしていきたいと思っております。感謝いたします。

稲田小学校ABCD

A: あたり前のことを

B: ばかにしないで

C: ちゃんとできる人が

D: できる人(すごい人)